

2023年12月14日

各 位

株式会社クシム  
 代表取締役会長 中川 博貴  
 (証券コード: 2345 東証スタンダード市場)  
 (お問い合わせ先) 代表取締役社長 伊藤 大介  
 電話 03-6427-7380

**連結業績と前期実績との差異及び個別業績と前期実績との差異及び  
 特別損失(連結・個別)の計上に関するお知らせ**

当社は、2023年10月期の連結業績及び個別業績につきまして、それぞれ前期実績との差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、2023年10月期第4四半期において連結決算及び個別決算において特別損失を計上いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 2023年10月期連結業績と前年実績の差異

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	一株あたり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 1,616	百万円 441	百万円 199	百万円 193	百万円 619	円銭 48.54
当期実績 (B)	394	△577	△911	△928	△1,658	△112.71
増減額 (B - A)	△1,222	△1,019	△1,111	△1,122	△2,277	-
増減率 (%)	△75.63	-	-	-	-	-

2. 2023年10月期個別業績と前年実績の差異

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	一株あたり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 320	百万円 36	百万円 14	百万円 22	百万円 210	円銭 16.50
当期実績 (B)	△372	△580	△582	△599	△696	△47.33

増減額 (B - A)	△693	△617	△596	△621	△906	-
増減率 (%)	-	-	-	-	-	-

### 3. 差異の理由

#### (売上高)

当連結会計年度における売上高は 394 百万円（前連結会計年度比 1,222 百万円のマイナス）となりました。この主たる内訳は次の通りです。

ブロックチェーンサービス事業において、主にチューリングガムのシステム受託開発が伸長した一方、コンサルティングの受注案件の収益化の遅延による影響により売上高が 219 百万円（前連結会計年度比 272 百万円のマイナス）となりました。また、システムエンジニアリング事業において、前連結会計年度において祖業である E ラーニング事業の譲渡及び株式会社イーフロンティアの売却等の影響により売上高が 579 百万円（前連結会計年度比 220 百万円のマイナス）となりました。加えて、グループ全体で複数の暗号資産への投資実行とそれによる時価評価による評価減の影響を受けた結果、インキュベーション事業の売上高が△405 百万円（前連結会計年度比 730 百万円のマイナス）となりました。

利益面につきましては、上述の通り、ブロックチェーンサービス事業のトークンエコノミクスのコンサルティングの受注案件遅延及び暗号資産の時価評価による評価減の影響による売上高の減少に加え、チューリングガムののれん償却費が年間を通じて発生したことによる影響を受けました。これらの結果、営業損失は 911 百万円（前連結会計年度は営業利益 199 百万円）となりました。

また、当社グループが保有する有価証券 1 銘柄を売却したことによる投資有価証券売却益 394 百万円等により、特別利益は 396 百万円（前連結会計年度比 152 百万円のマイナス）を計上しました。一方、特別損失は 1,051 百万円（前連結会計年度比 918 百万円のプラス）となりました。この主たる内訳は当社グループが保有する有価証券 5 銘柄について実質価額が著しく下落したことによる投資有価証券評価損 99 百万円を計上したこと、及び、チューリングガムにおいて、事業計画の変更を余儀なくされ減損の兆候が認められることから、のれんの未償却期間における今後の収益計画を保守的に見直して回収可能価額を慎重に検討した結果、当該のれんの未償却残高の一部に相当する 950 百万円の減損損失の計上によるものです。具体的には、チューリングガムのトークンエコノミクスの設計開発及び IEO コンサルティングを役務とするプロジェクトの収益化計画の一部がクライアント側のプロダクトローンチ及びトークン発行計画のリスケジュールの理由により遅延したことを踏まえ、事業計画の変更を余儀なくされたことによるものです。これらの結果、親会社株主に帰属する当期純損失は 1,658 百万円（前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純利益 619 百万円）となりました。

### 4. 特別損失（連結・個別）の計上について

(百万円)

	連結	個別
(1) 減損損失	950	—
(2) 投資有価証券評価損	99	87
(3) 固定資産除却損	1	—

#### (1) 減損損失（連結）

当社の連結子会社であるチューリングゲーム株式会社について、外部環境の変化等を踏まえ、今後の計画を見直した結果、コンサルティングの受注案件の遅延による影響により計画対比で営業損益が悪化しており、減損の兆候が認められることから、のれんの未償却期間における今後の収益計画を保守的に見直して回収可能価額を慎重に検討しました。その結果、すでに契約済みでマネタイズが予定されているプロジェクト以外の新規案件の収益化は不確実性が高く、当初想定されていた収益が見込めない可能性があるかと判断しました。このことにより、2023年10月期の連結決算において、同社に係るのれんの減損損失として950百万円を特別損失に計上いたしました。

(2) 投資有価証券評価損（個別・連結）

当社及び当社連結子会社が保有する投資有価証券について、財政状態や今後の見通しについて判定を行った結果等により、2023年10月期連結会計期間において、投資有価証券評価損99百万円を計上いたしました。

(3) 固定資産除却損（連結）

株式会社クシムソフトの島根事業所撤退に伴う原状回復費用（1,543千円）について、除却を実施したものであります。

以上